

平成28年（2016年）9月30日（金）

校長 内堀 繁利

皆さん、おはようございます

時間が経つのは早いもので、今日で平成28年度も半分が終わろうとしています。

前期を振り返って、皆さんそれぞれどんな感想を持っているでしょうか。

いま、4年生と三修制の3年生は、希望する進路の実現に向けて頑張っているところだと思いますが、前期を振り返ると、4月には入学式が行われ、新入生が古城の門の前、桜の花の下で記念写真を撮りました。

7月に行われた松尾祭、みんなよく頑張りました。定時制として初めてアンデパンダン展に参加しましたし、模擬店なども盛況で、お客さんに喜んでもらいました。

夏休み中から準備した、生活体験発表会。各クラスの代表による校内大会が、同窓会館で、学校評議員や教育振興会長さんなど、ご来賓を招いて行われましたが、発表した皆さんの一生懸命さと勇気にたくさんの感動をもらいました。聴く側の姿勢もとてもよかったと思います。

その、生活体験発表会の中でも語られていましたが、上田高校定時制に入学してくる生徒は、例えば、いじめにあっていたとか、友人との関係がうまくいかなかった、学校の雰囲気になじめなかったなどの理由で、学校に行けなかった、学校には行けても教室には行けなかったなど、入学までに様々な困難を抱えていた生徒がほとんどです。

それでも、入学後、多くの生徒が実に頑張っている。中には皆勤を続けている生徒もいる。班活をひたむきに頑張って全国大会まで行く生徒もいる。成績が確実に伸びてきている生徒もいる。

それは、皆さんを支えてくれる先生たちや周囲の友人・家族のおかげということももちろん大きいものがありますが、一番大きいのは、高校受検に当たって、あらためて自分自身と向き合い、見つめ直して、よ～し、様々な困難があっても、今度こそ学校に通い続けるのだ、しっかり学ぶのだ、と生徒一人ひとりが強く心に誓ったことだと思っています。

もちろん、人間なので、調子のいい時とうまくいかない時といった波があるかもしれませんが、嫌になってしまう出来事やトラブルもあるでしょう。それでも「絶対に後戻りはしない」という決意を持って学校に通って来ていると感じる場面がたくさんあります。

先程、前期を振り返ってどうですか？と訊きました。

他の人からいろいろ言われても、結局自分自身で納得しなければ、人間、本当には頑張れないし、変わりません。先程言ったように、皆さん一人ひとりがどう思うのか、どうしたいのか、そして、どれに基づいてどう行動するのか、が最も大事なのです。

前期、結構頑張ったと自分を褒められる人は、後期もそれを続けてほしいし、一層頑張れるところがあればそうしてほしいと思います。

前期、さぼってしまったなあ、うまくいかなかったなあ、という人は、ぜひ直してください。入学のときの決意を思い出してください。今日、通知票が渡されると思いますが、こういう区切りの時というのは、立ち止まって自分を見つめ直すにはいいチャンスです。

上田高校定時制で頑張ると決めた皆さん一人ひとりの高校生活が一層充実したものになるよう、これからも一緒に頑張りましょう。

期待していますよ。

終わります。